

北薩感染症情報

2024年第7週(2月12日～2月18日)

【問い合わせ先】 〒895-0041 薩摩川内市隈之城町228番地1

北薩地域振興局保健福祉環境部(川薩保健所)健康企画課

電話 0996-23-3165 FAX 0996-20-2127

E-メール kita-kenkou-shippei@pref.kagoshima.lg.jp

川薩・出水保健所における定点報告疾患

◎: 警報発令中 ○: 注意報発令中

定点種別	対象疾患	警報レベル			注意報レベル	川薩保健所管内					出水保健所管内				
		開始基準値	終息基準値	基準値		前週報告数(人)	今週報告数(人)	定点報告数	前週からの増減	警報注意報	前週報告数(人)	今週報告数(人)	定点報告数	前週からの増減	警報注意報
内科・小児科 定点	インフルエンザ	30.0	10.0	10.0		69	60	8.57	↓	—	86	64	12.80	↓	—
	COVID-19	—	—	—		126	104	14.86	↓	—	61	51	10.20	↓	—
小児科定点	RS	—	—	—		—	1	0.25	↗	—	—	1	0.33	↗	—
	咽頭結膜熱	3.0	1.0	—		53	41	10.25	↓	◎	19	21	7.00	↗	◎
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	—		12	13	3.25	↗	—	14	20	6.67	↗	◎
	感染性胃腸炎	20.0	12.0	—		36	35	8.75	↓	—	12	12	4.00	→	—
	水痘	2.0	1.0	1.0		—	—	—	→	—	—	—	→	—	
	手足口病	5.0	2.0	—		2	—	—	↓	—	2	—	—	↓	—
	伝染性紅斑	2.0	1.0	—		—	—	—	→	—	—	—	—	→	—
	突発性発疹	—	—	—		—	2	0.50	↗	—	—	—	—	→	—
	ヘルパンギーナ	6.0	2.0	—		—	—	—	→	—	1	—	—	↓	—
	流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3.0		—	—	—	→	—	—	—	—	→	—
眼科定点	急性出血性結膜炎	1.0	0.1	—		—	—	—	→	—	—	—	—	→	—
	流行性角結膜炎	8.0	4.0	—		6	5	5.00	↓	—	—	—	—	→	—
基幹定点	細菌性髄膜炎	—	—	—		—	—	—	→	—	—	—	—	→	—
	無菌性髄膜炎	—	—	—		—	—	—	→	—	—	—	—	→	—
	マイコプラズマ肺炎	—	—	—		—	—	—	→	—	—	—	—	→	—
	クラミジア肺炎	—	—	—		—	—	—	→	—	—	—	—	→	—
	感染性胃腸炎 病原体がロタウイルスに限る	—	—	—		—	—	—	→	—	—	—	—	→	—
指定医療機関からの インフルエンザ入院報告	—	—	—		—	—	—	→	—	—	—	—	→	—	
指定医療機関からの COVID-19入院報告	—	—	—		1	1	—	→	—	8	5	—	↓	—	
報告数合計	—	—	—		305	262	—	↓	—	203	174	—	↓	—	

<注意報・警報レベル>

- ・川薩保健所管内 咽頭結膜熱(警報レベル)
- ・出水保健所管内 咽頭結膜熱(警報レベル), A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(警報レベル), インフルエンザ(注意報レベル)

<全数報告>

- ・川薩保健所管内 なし
- ・出水保健所管内 なし

<インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等>

- ・川薩保健所管内 なし
- ・出水保健所管内 学級閉鎖: 阿久根市1件

定点種別	疾病	警報/終息基準値	注意報基準値	川薩保健所管内推移 (定点報告数) 基幹定点(報告数掲載)									
				50W	51W	52W	1W	2W	3W	4W	5W	6W	7W
内科・小児科 定点	インフルエンザ	30.00/10.00	10.00	26.14	17.71	23.86	11.14	15.71	16.57	8.71	11.00	9.86	8.57
	COVID-19	—	—	4.14	3.14	4.29	5.00	9.86	19.57	22.86	34.71	18.00	14.86
小児科定点	RSウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.50	—	0.25
	咽頭結膜熱	3.00/1.00	—	0.75	2.75	4.00	2.00	3.25	5.50	7.50	11.50	13.25	10.25
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.00/4.00	—	3.00	2.75	3.00	0.50	4.25	7.00	4.75	3.25	3.00	3.25
	感染性胃腸炎	20.00/12.00	—	10.25	21.50	26.25	5.50	9.50	12.75	7.75	10.00	9.00	8.75
	水痘	2.00/1.00	1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	手足口病	5.00/2.00	—	2.00	3.25	0.75	0.25	—	1.50	1.25	1.75	0.50	—
	伝染性紅斑	2.00/1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	突発性発疹	—	—	0.75	0.75	—	—	—	0.25	0.25	0.50	—	0.50
	ヘルパンギーナ	6.00/2.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	流行性耳下腺炎	6.00/2.00	3.00	—	—	—	—	—	0.25	—	—	—	—
眼科定点	急性出血性結膜炎	1.00/0.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	流行性角結膜炎	8.00/4.00	—	4.00	3.00	4.00	4.00	3.00	7.00	7.00	6.00	6.00	5.00
基幹定点	細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	感染性胃腸炎 病原体がロタウイルスに限る	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

定点種別	疾病	警報/終息基準値	注意報基準値	出水保健所管内推移 (定点報告数) 基幹定点(報告数掲載)									
				50W	51W	52W	1W	2W	3W	4W	5W	6W	7W
内科・小児科 定点	インフルエンザ	30.00/10.00	10.00	44.60	30.80	33.60	11.20	15.20	13.20	7.20	15.00	17.20	12.80
	COVID-19	—	—	1.00	1.60	2.60	4.40	7.60	29.20	18.60	25.40	12.20	10.20
小児科定点	RSウイルス感染症	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.33	—	0.33
	咽頭結膜熱	3.00/1.00	—	9.33	9.67	12.67	6.00	7.00	4.33	10.00	10.00	6.33	7.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.00/4.00	—	6.67	2.33	5.33	4.67	8.67	4.67	7.33	10.67	4.67	6.67
	感染性胃腸炎	20.00/12.00	—	4.67	8.00	5.00	4.00	11.00	16.67	7.00	8.67	4.00	4.00
	水痘	2.00/1.00	1.00	0.67	0.33	0.67	—	—	—	—	—	—	—
	手足口病	5.00/2.00	—	0.33	1.33	1.00	0.33	0.33	1.00	0.33	—	0.67	—
	伝染性紅斑	2.00/1.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	突発性発疹	—	—	—	0.33	—	—	0.33	—	0.33	—	—	—
	ヘルパンギーナ	6.00/2.00	—	—	—	0.33	—	—	—	—	—	0.33	—
	流行性耳下腺炎	6.00/2.00	3.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
基幹定点	細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	感染性胃腸炎 病原体がロタウイルスに限る	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

★第7週に関して、どちらの地域も全体的に報告数は減少傾向ですが、例年よりも報告数が多い感染症がいくつかありますので、気持ちを緩めずに引き続き感染対策に努めましょう。川薩では咽頭結膜熱、出水では咽頭結膜熱とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の警報が引き続き発令中ですので感染対策をしっかりと行いましょう。インフルエンザ様疾患による学級閉鎖は阿久根市で1件ありました。寒暖差が激しくなってきましたので体調管理をしっかりと行い、体調を崩さないようにしましょう。

できていますか？

衛生的な手洗い



1 流水で手を洗う



2 洗剤を手に取り



3 手のひら、指の裏面を洗う



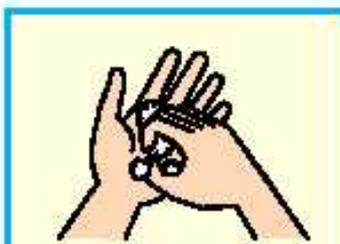
4 手の甲、指の背を洗う



5 指の間(側面)、指(付け根)を洗う



6 親指と親指の付け根のふくらんだ部分を洗う



7 指先を洗う



8 手首を洗う(内側・側面・外側)



9 洗剤を十分な流水でよく洗い流す



10 手をふき乾燥させる



11 アルコールによる消毒

2度洗いが効果的です!

2~8までの手順をくり返し2度洗いで菌やウイルスを洗い流しましょう。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎にご注意ください！

- ・飛沫感染
- ・接触感染
- ・経口感染

ノロウイルスにご注意を！！

年間の食中毒の患者数の約半分はノロウイルスによるものであるといわれ、うち7割は11月～2月に発生しています。また、冬の感染性胃腸炎の集団発生の多くはノロウイルスによるものと考えられています。

ノロウイルスは手指や食品を介して経口(口の中にウイルスが入ること)で感染し人の腸管で繁殖します。そして嘔吐や下痢、腹痛を引き起こします。健康な方は軽症で回復しますが、お子様やご高齢の方の場合は重症化したり、吐物を誤って気管に詰まらせてしまう可能性があります。食品からだけでなく、便や吐物からも感染のリスクがありますので、お子様やご高齢の方とお過ごしの方は特に感染予防を徹底しましょう。

どのようにして感染が広がる...？

- ①ノロウイルスに感染した患者の便や吐物から人の手などを介して二次感染した場合
- ②家庭や共同生活施設などヒト同士の接触する機会が多いところでヒトからヒトへ飛沫感染等、直接感染する場合
- ③食品取扱者(家庭で調理を行う者も含む)が感染しており、その者を介して汚染した食品を食べた場合
- ④汚染されていた二枚貝を、生あるいは十分に加熱調理しないで食べた場合
- ⑤ノロウイルスに汚染された井戸水や簡易水道を消毒不十分で摂取した場合

汚染された物	処理方法
リネン類	付着した汚染物を静かに拭き取り→洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗い→熱水洗濯(85℃・1分) or 次亜塩素酸ナトリウム(※1)や亜塩素酸水(※2)で消毒→高温の乾燥機で乾燥(すぐに洗濯できない場合はよく乾燥させた後にスチームアイロンや布団乾燥機を使用)
洗面所や処理をした洗い場	次亜塩素酸ナトリウム(※1)や亜塩素酸水(※2)で消毒→洗剤で掃除
食器類	厨房等に戻す前に次亜塩素酸ナトリウム(※1)液や亜塩素酸水(※2)で十分に浸す
カーテン、日用品、ドアノブなど	次亜塩素酸ナトリウム(※1)や亜塩素酸水(※2)で消毒(→金属の場合は薬品の拭き取り)
床	ペーパータオル(市販の凝固剤も使用可能)等で外側から内側に静かに拭き取り→次亜塩素酸ナトリウム(※1)や亜塩素酸水(※2)で浸すように拭き取り→水拭き→換気
おむつ、拭き取りに使用したペーパータオル	(速やかに閉じて便を包み込んだ後)→ビニール袋に入れる→廃棄物が十分に浸る量の次亜塩素酸ナトリウム(塩素濃度約1,000 ppm)や亜塩素酸水(遊離塩素濃度100 ppm)を入れる

(※1)次亜塩素酸ナトリウム...塩素濃度約200 ppm(塩素系漂白剤で代用可) (※2)亜塩素酸水...遊離塩素濃度25 ppm
注:薬剤使用時は「使用上の注意」を確認しましょう



拭き取りは吐物等が飛び散らないように外→内に静かにいきましょう。

処理時はガウン(エプロン)、マスク、手袋を必ず着用しましょう。



乾燥してしまうと空気中にウイルスが舞ってしまいます。乾燥しないうちに速やかに処理しましょう。



冬は特にご注意ください！

食中毒を防ぐ方々へ

ノロウイルスによる食中毒

食中毒は夏だけではありません。
ウイルスによる食中毒が
冬に 多発しています!!!

データでみると

ノロウイルスによる食中毒は、

◆原因別で第1位



原因別の食中毒患者数（年間）

◆冬期に多い



ノロウイルス食中毒の発生時期別の件数（年間）

◆大規模な食中毒になりやすい



食中毒1件あたりの患者数

※出典：食中毒統計（平成30～令和4年の平均。病因物質が判明している食中毒に限る。）

ノロウイルスによる食中毒予防のポイント

調理する人の

健康管理

- 普段から感染しないように食べものや家族の健康状態に注意する。
- 症状があるときは、食品を直接取扱う作業をしない。
- 毎日作業開始前に調理従事者の健康状態を確認し、責任者に報告する仕組みをつくる。

作業前などの

手洗い

- 洗うタイミングは、
 - トイレに行ったあと
 - 調理施設に入る前
 - 料理の盛付けの前
 - 次の調理作業に入る前
 - 手袋を着用する前
- 汚れの残りやすいところをていねいに
 - 指先、指の間、爪の間
 - 親指の周り
 - 手首、手の甲

調理器具の

消毒

- 洗剤などで十分に洗浄し、熱湯で加熱する方法又はこれと同等の効果を有する方法で消毒する。

詳しい情報は、厚生労働省ホームページ「ノロウイルスに関するQ&A」をご覧ください。

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_jiryou/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

ノロウイルスQ&A

検索

咽頭結膜熱の警報が続いています...

- ・飛沫感染
- ・接触感染
- ・経口感染

咽頭結膜熱とは

咽頭結膜熱とは、アデノウイルス(ほとんどが3型)を原因病原体とする、小児に多い感染症です。夏期(5月～8月)にピークを示すことが多いですが、1年を通して感染する恐れがあります。現に、川薩及び出水地区においては咽頭結膜熱の警報が続いています。潜伏期は5～7日であり、発熱、咽頭発赤、結膜充血などの症状や所見を伴います。

感染の仕方は...?

- ・汚染されたプールの水に入る
- ・タオルを共有する
- ・汚染された手で粘膜に触れる
- ・咳やくしゃみを吸い込む

感染対策は...?

- ・プールに入った後はシャワーとうがいをする
- ・石けんで手を洗う
- ・タオルの共有をしない
- ・共有のものは消毒を行う
- ・咳エチケットを心がける

主な症状

- ・発熱
- ・頭痛
- ・食欲不振
- ・倦怠感
- ・咽頭痛
- ・結膜充血
- ・眼痛
- ・羞明
- ・流涙
- ・眼脂



眼症状について

- ・3～5日間程度継続
- ・下眼瞼に症状が現れやすい
- ・症状は片方から始まり、後にもう片方も現れる

アルコール消毒は効きません!!!



インフルエンザもまだまだ対策が必要！

- ・飛沫感染
- ・接触感染

インフルエンザとは

※鳥インフルエンザとは異なります。

インフルエンザとは、インフルエンザウイルスを病原体とする気道感染症で、「一般のかぜ症候群」とは分けて考えるべき「重くなりやすい疾患」です。普通の風邪と同様に咽頭痛、鼻水、咳等の症状が見られますが、併せて高熱と全身症状（関節痛・筋肉痛・倦怠感等）が急速に現れるのが特徴です。年齢を問わず呼吸器、循環器、腎臓に慢性疾患を持つ患者や高齢の方、糖尿病などの代謝疾患、免疫機能が低下している方では、原疾患の増悪と呼吸器に二次的な細菌感染症を起こしやすくなることが知られています。

日本においては12月～3月に流行する傾向があり、潜伏期は1～3日（A型、B型の場合）です。

どんな症状が出るの...?

- ・発熱(38°C以上)
- ・頭痛
- ・関節痛
- ・筋肉痛
- ・全身倦怠感
- ・鼻汁
- ・咳
- ・咽頭痛

インフルエンザの語源は、定期的に流行することから、イタリアの占星家が星や寒気の影響(=Influence)によるものと考えたからだとされています。



インフルエンザ予防！

・飛沫感染対策としての「咳エチケット」

*「咳エチケット」

- ① 普段から皆が咳やくしゃみを他の人に向けて発しないこと
- ② 咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをすること
- ③ 手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗うこと

・外出後の手洗い等

アルコール製剤による手指衛生も効果◎

・適度な湿度の保持

室内は加湿器などを使って適切な湿度(50～60%)を保つ◎

・十分な休養とバランスのとれた栄養摂取

・人混みや繁華街への外出を控える

・室内ではこまめに換気をする

対角線上にあるドアや窓を2か所開放すると◎



インフルエンザにかかったら...

- ・具合が悪い場合は早めの受診を。
- ・安静にして、休養を。
特に、睡眠を十分にとることが大切。
- ・十分な水分補給。
お茶でもスープでも飲みたいものでOK。
- ・咳やくしゃみ等の症状のある場合は、感染拡大防止で不織布製マスクを着用
- ・人混みや繁華街への外出を控える。
無理をして学校や職場等に行かない。



家畜・家きんの感染症について (豚熱・鳥インフルエンザ)

人への感染は
ありません！

豚熱(CSF)とは

豚熱(CSF, 旧称: 豚コレラ)とは、豚熱ウイルスによる豚やいのししの熱性伝染病です。人への感染は確認されていません。豚肉の摂取により人に感染することも世界的に報告されていません。

また、豚熱に感染した豚の肉が市場に出回ることもありませんので、安心しておいしくお肉を食べましょう。

どうやって広がるの？



唾液・涙・糞尿中にウイルスを排出しています。感染豚との接触や汚染物品との接触等により、容易に広がります。

気をつけることは？



野生いのししの感染も確認されています。いのししを寄せ付けないう、キャンプや登山、森林で作業される際は食べ物を野外に放置しないようにしましょう。また、土にウイルスが潜んでいる場合もありますので、靴裏の土はしっかりと落としましょう。

鶏肉や鶏卵を食べて感染したという報告はないよ！

鳥インフルエンザA (H5N1, H7N9)



日本における
人の感染例なし
※海外においては感染例あり

鳥インフルエンザA (H5N1, H7N9)の原因となるウイルスはA型インフルエンザウイルス(H5N1 亜型, H7N9 亜型)です。これらのウイルスを保有している水きん類(アヒルやカモなどの水鳥)の多くは症状が出ませんが、家きん類(ニワトリや七面鳥など)に感染すると、強毒性を示して死を招きます。

国内において、人の鳥インフルエンザ感染は報告されていませんが、アジアを中心に人への感染が確認されています。感染した人は鳥インフルエンザウイルスによって病死した鳥の毛をむいたり、調理したりという接触機会があった方に限られています。また、人から人への持続的な感染は確認されていません。

症状は...？

- ・高熱
- ・呼吸窮迫
- ・頻呼吸
- ・呼吸時の異常音

通常のインフルエンザと同じような症状が現れます

感染しないようにするには...？

- ・鳥との接触を避け、むやみに触らない
- ・生きた鳥が売られている市場や養鶏所にむやみに近寄らない
- ・手洗いの励行(特に発生国)